



「不屈」No599 付録
埼玉版 (No427)

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
埼玉県本部

〒330-0063

さいたま市浦和区高砂
2-3-10 黒澤ビル3B

電話・Fax 048-824-0094

chian2022@gmail.com

郵便振替 00110-7-83245

〈国会請願三項目〉

- ① 国は、治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
- ② 国は、治安維持法犠牲者に謝罪し賠償を行うこと
- ③ 国は、治安維持法による犠牲の実態を調査し、その内容を公表すること

活気溢れる「県理事会」の成功を力に、8月の「県総会」までに支部づくりに取り組み”支部倍加”を実現しよう！

第二回県理事会開催



冒頭、小池副会長から先日亡くなられた高橋隆亮前監事はじめ4名の計報に対し黙祷が行われ、4ヶ月振りに開かれる第2回理事会の重要な意義について述べ、議長団に大澤、渡辺両常任理事を選出して議事に入りました。

大野辰男事務局長が報告

加藤ユリ会長からは、情勢の特徴と「同盟運動」の出番の役割が訴えられ、「緊迫感をもって取り組もう」との挨拶

のあと、大野辰男事務局長が報告に立ち、前総会以降の活動の到達と特徴が報告され、「5百名県同盟達成を確信に、8月の「県総会」までに、支部の倍加をやり遂げ、県創立50周年に向けて更なる飛躍の年にしよう」と、前総会で決めた、①改憲を許さない取り組み、②映画「わが青春つぎるとも」第三次上映運動の成功、③国会請願署名と紹介議員を増やす活動、④会員拡大と支部づくり、⑤「不屈」の充実と情報発信

の工夫と発展、⑥犠牲者を顕彰する活動と50周年記念誌の発行、書籍活動・学習の強化、⑦地方議会での意見書採択、⑧財政活動、⑨幹部の養成、世代継承問題、以上9点が報告されました。そのあと、澤野財政部長からの財政報告、橋本HP委員会事務局長が、HPアクセス方法やライングループ参加案内が提案されました。

活発だった理事会の質疑・討論

休憩後に60分ほどの質疑討論が行われ、50周年企画案や特別期間と支部づくりを軸に熱い討論が行われ、会議後には、支部づくりを具体化する相談会が何ヶ所かで開かれ、熱心な討論となりました。その後、加藤会長から討論のまとめ、岩田副会長の閉会挨拶があり、閉会となりました。また、国会請願には、初参加者も含めて積極的な参加表明が相次ぎ、県総会成功に向け弾みがつく会議となりました。

熱風

今年の新年早々、能登半島地域で地震がありました。だが、この地震により、防災対策における様々な問題に気づかされました。例えば、地震から3週間たつて、ようやく段ボールベッドが運ばれ、段ボールの仕切りが出来たと言われています▼

日本は、被災者の権利と人道支援の国際基準を定めた「スフィア基準」を満たしていないとも言われますが、雑魚寝はそれだとも思いますが、災害対策基本法での目的が「社会の秩序の維持と公共の福祉の確保」とあるのは、国民の命より国土、公共の福祉より社会秩序を優先する「全体主義」が表れているといわれます▼そんな中、岸田政権は、米国などとの兵器開発推進のため、経済秘密保護法案(重要経済安保情報法案)を国会で強行に審議を進めています。関東大震災後、満州事変後に寺田寅彦は、その随筆「天災と国防」(一九三四年十一月)で、「戦争は是非とも避けようと思えば人間の力で避けられなくはないであろうが、天災ばかりは科学の力でもその襲来を中止させるわけには行かない。」と書いています。今、やるべき国防は戦争準備ではなく防災対策です。(治)

新企画
第1回

戦争を語り継ぐ
“私の戦争体験”

二度と戦争をさせないために「戦争体験を語り継ぐ」欄を計画して、原稿を募集したところ、次々と原稿が寄せられて来ています。

第1回は、「熊谷空襲を忘れない市民の会」の米田かずみさんの「若者への訴え」の「体験談」を掲載します。

伝えられたか 高校生へ

米田 かずみ

二月八日、市内の高校から依頼があり、社会人講師として授業をしてきた。対象は定時制の生徒たちである。

テーマは「熊谷空襲から戦争と平和を考えてみる」である。定時制の生徒は年令差も大きく家庭環境もさまざまであると担任の先生から聞かされていた。私のよくな年寄りの話を真面目に聞くのか心配でもあった。チャイムが鳴ると大声を上げながら男子生徒二、三人が教室移動をして入ってきた。女子生徒もいる。円形で話しやすいように机と椅子を設定してもらった。右手の男子生徒が

おしゃべりを止めない。はて、どうするか、こんな時に私の力量が試される。自己紹介後その子たちから視線を反らさず質問を畳みかけた。何だ、聞く気があるんじゃないか。そのまま本題に入った。ヨーロッパで起こっている戦争について聞くに関心はありそうだ。

「七十八年前だけど熊谷でも空襲があったのよ。」というところから聞いただけ、先生から聞いて知っているといるという。

事前学習は済んでいるらしい。私の本命は本当に自分に近づけて戦争を知ろうとしているかである。図書館の資料に熊谷空襲があった翌日に写真館が写した市街地の全景がわかる写真があったのでプロジェクトで写した。ハツとしたらしい。視線が集中している。自分たちがいつも見ている日常の風景がウクライナやガザと同じ光景になっていることに衝撃を受けたらしい。そして街の中心を流れる星川の惨劇は証言集から抜粋して資料にした。

「実はこの日に私は生まれたんです」今度は私の方へ視線が集中した。「私が生まれた日」の朗読を始めた。おしゃべりをやめなかった

男子生徒たちが前のめりになって「最初は周りどふざけながらいつものテンションで聞こうとしていました。でも話を聞くうちにだんだんと悲慘さや、その時の情景が浮かび、ここは絶対にふざけては駄目だな、という気持ちとしたいという気持ちから自ずと自分自身でちゃんと聞きたいと思いついた時には静かになってしっかりと聞き入ってしまいました。」

後で担任に聞いたのだが、この子は施設から通っているということである。

授業が終わると、まつ毛にカールを入れた女子生徒が質問する。「お父さん何歳で死んだの。」「お母さんは何歳で米田さんを産んだの。」「わたし、途中で涙が出そうになっちゃった」何らかの事情で普通科に来られず、学び直ししようとして夜間、学校へ通ってくる生徒たち。わずかに四十五分の授業で心をひらき聞いてくれた生徒たちに胸が熱くほとばしる想いであった。



米田さんの詩集
私が生まれた日

短歌

北風は唸りペタルに力入れ

希望届ける日刊紙配達

春日部市 細谷 宣朗

3%で生まれし消費税35歳

10%は重い今日の買い物

宇都宮市 宮地 さか枝

俳句

手をぬくや雑草たちまち庭被う

春日部市 浅子 薫衣

連想し咲かぬ桜と睨めつゝ

行田市 大野 辰男

夏近し「お帰り寅さん」吾に言う

さいたま市 小池 莊市

春の風裏金乗せて消えて行く

行田市 鈴木しげる

秩父路のパッチワークや芝桜

行田市 鈴木 みち

川柳

許せない米に血税横流し

正体がばれて支持率上がらない

春日部市 福家 駿吉

同盟文芸



埼玉県の戦前における 「社会進歩のたたかいと抵抗の歴史」

連載
第9回

大震災と朝鮮人虐殺事件、 亀戸事件など その1

一九二三(大正一二)年九月一日正午二分前相模湾北西部沖を震源地とするマグネチューウド七・九〇八・二の大地震が一府六県を襲いました。埼玉県でも震度六を記録し、県下の被害は、元荒川・古利根川流域の北足立郡南部、南埼玉郡南部、北葛飾郡に集中し、特に川口町・柏壁町・幸手町が三大被害地とされました。最も被害の大きかった川口町では、三一六棟の鋳物工場が全半壊し、死者一〇人を含む四二人の死傷者を出し、八六二戸の住家が全半壊しました。大宮町では、東京鉄道局大宮工場の作業所の一部倒壊によつて煙突が崩れ、死者二四人を出す惨事となりました。柏壁町では、町並みの家屋崩壊または傾き、破壊し、満足な家屋はほとんどない被害を受けました。幸手町もまた、三三〇戸余の住家が全半壊し、死者一〇人を含

む五〇人の死傷者を出しました。〔大正大震災誌〕全県で、建物の被害戸数・棟数が約七万、死者二一七人、負傷者五一七人と報告されています。そうしたなかで、九月二日、「在京不逞朝鮮人ノ群ハ所々ニ放火」、「不逞ノ行動アリ」、「尚本県ニ入込ムヤ毛図リ難シ」、「町村当局は在郷軍人分会消防手青年団と一致共同して其の警戒に任ずべし」との通牒が町村・関係団体にだされました。この通牒は、戒厳司令部の通牒が県・郡役所を通して出された公的通告であったために、以後、自重を求める布告などがだされ、根拠のない噂であったにもかかわらず、「朝鮮人が攻めてくる」などの流言蜚語となつて一気に広まります。県下の住民が、恐怖心と差別的心情をつのらせる中、各町村に自警団が組織され、「朝鮮人狩」が始まります。熊谷町(現熊谷市)では、暴徒化した自警団が、埼玉県警察部による県外移送中の朝鮮人集団に襲いかかり数一〇人の死者を出しました。これに続き、本庄ではほぼ

百人、神保原で三九人、寄居で一人、児玉で一人、深谷で一人の朝鮮人が、一部民衆の暴力で虐殺されています。また、デマに感わされた当時の片柳村(現さいたま市見沼区)の自警団によつて二四歳の朝鮮人青年・姜大興(カンデフン)さんが殺されました。常泉寺には、全国でも珍しい、当時の地域の人々が姜大興さんの供養のために建てたお墓があり、毎年、慰霊祭が行なわれ、昨年は百周年を記念して説明プレートが建てられ盛大に慰霊祭が行われました。(次号に続く)



常泉寺にある姜大興さんの墓と記念碑

時の話題

靖国神社と自衛隊が急接近…、また「英霊」をうむつもりか

天皇制政府がすすめた侵略戦争による旧日本軍の死者を「英霊」として祭る靖国神社と自衛隊との接近をうかがわせる出来事が相次いでいます。最近、靖国神社トップの宮司に、シベリアンコントロールの見直しを要求し、首相の靖国神社公式参拝を求める「英霊にこたえる会」会長の元海上自衛隊海将大塚海夫氏が就任しました。

また、別の元自衛隊幹部からは、「将来、国土を守るために戦死する自衛官が生起するかもしれない。(中略)一般公務死ならば防衛省の慰霊碑に祀(まつ)られるが、戦死の場合それでいいのだろうか。筆者ならば靖国神社に祀つてほしい」と述べ、自衛官の戦死に備え靖国神社を国家の「慰霊顕彰施設」として復活させよとの声を上げています。

岸田政権が敵基地攻撃能力保有など大軍拡を進め、自衛隊が米軍の事実上の指揮下に置かれ、「新たな戦前」の危険が迫る中、彼らは、また英霊を生むつもりなのでしょう。こうした侵略戦争美化につながる自衛隊の言動を許さないことはいよいよ重要な課題になっています。

埼玉同盟「50周年記念誌」作成順調に進む9月末完成

埼玉県の「国賠同盟」は、全国で一番早く出来た「地方組織」で、今年10月26日には、創立50周年を迎えます。その記念行事のひとつとして、21年8月に開催された第56回県総会で、「創立50周年までに、犠牲者名簿が入った「埼玉同盟の50年史」を作成する事を決め、「50年誌」作成促進委員会(責任者加藤ユリ会長)を作つて、以下の内容で作成を進めてきました。

(1)埼玉県の近現代史「埼玉県の戦前における社会進歩のたまたいと抵抗の歴史」の作成(2)明治維新から終戦までの、世界、日本、埼玉の動きと「県同盟の50年の歩み」の二つの年表(3)埼玉ゆかりの「犠牲者名簿」の作成、①は、昨年9月の「不屈」から連載を始め「戦前埼玉にもこんな闘いがあつたのか」との感想も寄せられています②の「年表」は世の中の動き、歴史の流れがよく解り、また埼玉同盟の50年の活動の歩みも解ります③の埼玉ゆかりの「犠牲者」名簿は、沢山の資料から選び出し、257名になりました。埼玉にもこんな素晴らしい方がいたのかと興味津々です。9月末には完成するよう進めています。ご期待ください。

5・15「国会請願」成功へ、行田・羽生支部、今年も「署名目標」達成し国会へ代表派遣

国賠署名の目標と到達状況

2024年5月1日現在

支部名	個人目標	到達	団体目標	到達	遂行率
岩槻	700	253	15	7	36.3%
川越		5		2	
春日部	300	211			70.3%
ふじみ野	150	13			8.6%
行田羽生	300	320	10	17	108.7%
直属	8,550	3,825	225	65	44.5%
合計	10,000	46,27	250	103	46.1%

【個人署名】

(1097筆)

国会請願署名推進コーナー

菅原 明 さいたま緑区 20筆
 和田 日出子 上尾市 30筆
 服部 弘明 滑川町 8筆
 中村 郭司 飯能市 1筆
 林 登美男 狭山市 139筆

【団体署名】

(37団体)

埼玉合唱団、埼教組北埼玉支部、入間民主商工会、埼玉労働問題研究会、埼玉ユニオン秩父支部、子育てネットワーク深谷、医療生協さいたま加須支部、同星河支部、同南河原支部、同行田東支部、同中央支部、同見沼支部、同利根支部、日本共産党埼玉県委員会、同 西南部地区委員会、同 嵐山支部、同のんのん支部、同 越生支部、同大橋支部、同こぶし東支部、同水野支部、同所沢東支部、同東所沢柳瀬支部、同狭山市員会、同鳩ヶ谷西支部

生田功子 川口市 10筆
 金子正江 越谷市 5筆
 岩田治樹 上尾市 5筆
 埼玉革新懇 10筆
 埼玉AALA 152筆
 大宮平和美術展 25筆
 メーデー会場駅頭 27筆
 日本共産党中部地区委員会 35筆
 同 東部南地区委員会 35筆
 同 さいたま地区委員会 88筆
 同 西南部地区委員会 137筆
 同 南部地区委員会 71筆
 同 西部地区委員会 50筆
 同 北部地区委員会 40筆
 国賠同盟 岩槻支部 49筆
 同 春日部支部 25筆
 同 ふじみ野支部 9筆
 同 行田・羽生支部 126筆

4月の「会員拡大」は6名

4月度の会員拡大は6名でした。死亡など退会者が3名あり、3名の前進でしたが、8月の県総会に向けて「支部づくり」の新たな広がりとは具体化が始まっています。

訃報

高橋隆亮さん(82歳)

3月30日死去。さいたま市見沼区居住、旧大宮市議6期務める。「国賠同盟」は、古くからの会員で、昨年まで、埼玉県本部の会計監事を勤めて下さいました。

森田 君子さん(84歳)

4月25日死去。川越市在住、「国賠同盟」は、県本部副会長を長年務めて下さいました。お二人の「冥福」を心からお祈りいたします。

署名合計 (5月1日現在)

個人署名 4627筆
 団体署名 103筆